



# 令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【城陽市立青谷小学校】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	佐藤選手との交流：城陽市立青谷小学校児童 5年～6年 安井選手との交流：城陽市立青谷小学校児童 4年～6年
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習・特色ある活動等）
4 目 標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピアとの出会いにより、スポーツに関心を持ち「スポーツごころ」を育てる。</li> <li>・障がいのある人への理解を深め、共生する社会を大切にする心を育てる。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) 講師：佐藤選手</p> <p>①オリンピックの時の様子を聞く</p>  <p>当時の映像を見せながら、児童に夢に向かって頑張ることの素晴らしさを伝えてもらった。</p> <p>②佐藤選手から体の動かし方の指導を受ける</p>  <p>具体的なアドバイスを受けながら速く走る方法を学ぶ。</p>

	<p>(2) 講師：安井選手</p> <p>①車いす生活になった経緯と、車いすフェンシングを始めたきっかけを聞く</p>  <p>生活する中で感じた苦労や周囲の人々の温かさを伝えてもらった。</p> <p>②競技者として苦労や喜びを聞く</p>  <p>競技道具に触れたり、フェンシングと車いすフェンシングの違いを実演してもらったりした。</p>
<p>6主な成果</p>	<p>(1) 佐藤選手 児童の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック選手の走る速さに驚いた。</li> <li>・アドバイス通りに走ると速く走れてうれしかった。</li> <li>・走るコツが分かったからマラソン大会で頑張りたい。</li> <li>・高校からはじめたのにオリンピックに出られてすごい。</li> <li>・「努力すれば、その分努力したことが自分に返ってくる」という言葉に感動した。</li> </ul> <p>(2) 安井選手 児童の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「良い出会いも悪い出会いもすべて大切にしたい」という話を聞いて私も出会いを大切にしたいと思った。</li> <li>・安井さんの話を聞いて、車いすにのっている人のイメージなどが、がらっと変わりました。</li> <li>・夢をあきらめないことが大切だと思いました。</li> <li>・「スポーツには目に見えない奥深さがある」と話していたのが印象的でした。</li> <li>・障がいがあっても「それがなんだ」と何事にもポジティブに考えていてすごいなと思った。</li> </ul>

	<p>(3) 成果として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 多くの児童が、アスリートの考え方や生き方に肯定的な意見を書いており、夢に向かって努力することの大切さを理解した。</li> <li>• 実演、体験を通して運動への関心が強くなった。</li> <li>• 車いすフェンシングの実演を見て障がいがある人に対する意識が変化した児童が多かった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例年の学習内容である障がい者理解教育(特支部)、持久走、マラソン(体育部)と連携させることで、各教科と関連付けを意識し継続的な活動を行うことができた。</li> <li>• 講話だけでなく実演をしてもらうことで、児童が興味を持って参加することができた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事務手続きが難しい。(講師リスト無し、日程調整)</li> <li>• 知名度の高いアスリートは講演料が高額となる。</li> <li>• 実演を複数人にお願いすると、講演料が高額となったり、必要な道具(車椅子等)を用意するのが難しい。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校内に 2020 年東京オリンピックの掲示板を作成する予定である。児童の運動への関心を高めていきたい。</li> <li>• 体育部と連携し新体力テスト結果を分析し各学年で体力向上の取組を進めていく。</li> <li>• 特支部と連携して障がい者理解教育を深めていく。</li> </ul>

五輪アスリートに学ぼう

城陽市立 5・6年生へ陸上クリニックス  
青谷小

城陽市立青谷小学校 6人)で14日、オリン  
ピアンをゲストに迎え、児童たちがウキウ



試走を重ねる児童を見つめる佐藤さん(左後方)



高く跳ぶことを心掛けながら足を動かす児童たち

キと心身奮闘させた。来年の東京開催に向けボルテージが徐々に高まる中、オリンピック・ク・バリンピック教養、現在は府立・河淵育の環として、福島県会津若松市出身で清さん(39)を講師に仙台大から富士通に進迎え、講演と実技指導

大学進学後に頭角を現した佐藤さんは、2003年全日本選手権

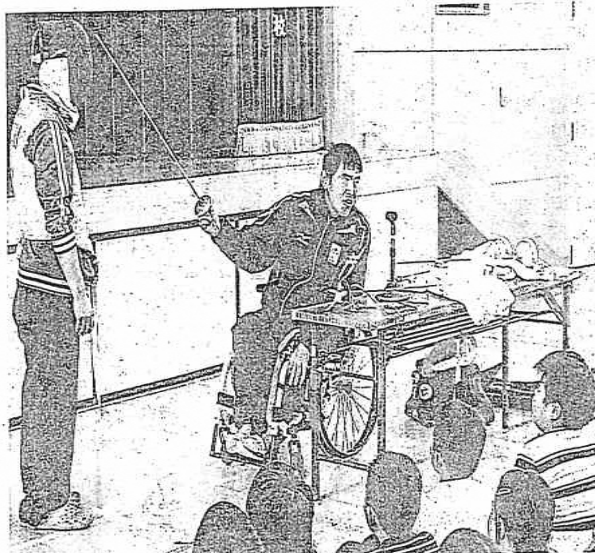
この日、参加した  
年生40人・6年生46人  
は、意気揚々とテララ  
ンドに足を運び、佐藤  
さんのアレバースに開  
き目を立てた。高く跳  
びジャンプ、スピード  
を上げたスキャンなど  
のアクションを、  
廊下の壁際に貼った  
な靶、同校では、18  
1月にも重いスウェ  
ーリングの選手を迎え  
た「オリ・パラ教育」  
を、4〜6年生対象に  
行。

「何事も一度やってみよう」

車いすフェンシング・安井さん

競技始めた経緯、魅力語る

城陽・青谷小



車いすフェンシングについて説明する安井さん(城陽市中・青谷小)

2010年の中国・広州アジアパラ競技大会で車いすフエンシングに出場した安井一彦さん(51)は、川崎市市長池田が18日、同市中央公会堂で講演した。友人に誘われ始めた車いすフエンシングにのめり込んだ経験振り返り「興味が無くても、何事も一度は、やってみる気持ちが大切」と呼び掛けた。

安井さんは17歳の時、オートバイ事故に遭い、車いすを使うようになった。20年ほど前、車いすフエンシングを始めた。アジア大会などの国際試合を経験し、現在は一線から退いている。

通常のフエンシングとルールはほぼ同じだが、健常者の競技と比べて試合開始時、選手間の距離が近いので、「剣を動かすスピードが速い」と車いすフエ

ンシングの魅力を語った。

細かい動作を意識して練習に励んだとし、「好きなことを突き詰める」と、物事の奥深さに気付く。自分がやりたいことを長く続けてほしい」と話した。

障害者への理解を進める一環で、4～6年の児童約130人が聴いた。

(西田昌平)

(西田昌平)